

## 会議録

会議の名称	第3回加東市滝野地域小中一貫教育推進協議会
開催日時	平成27年12月3日(木) 19時00分から20時32分まで
開催場所	滝野中学校 2階 図書室
<p>議長の氏名 (委員長 芹生一二)</p> <p>出席及び欠席委員の氏名</p> <p><b>【出席委員】</b> 10人</p> <p>芹生一二委員 小林喜代治委員 西山豊委員 阿江正幸委員 藤川貴博委員 黒崎泰則委員 藤原哲史委員 浜口大介委員 尾崎高弘委員 小林美穂委員</p> <p><b>【欠席委員】</b> 3人</p> <p>甲山友和委員 時井秀人委員 藤川大介委員</p>	
<p>説明のため出席した者の職氏名</p> <p>なし</p>	
<p>出席した事務局職員の氏名及びその職名</p> <p>教育長 藤本謙造 教育部長 堀内千穂 教育総務課 課長 大橋博英 同 副課長 柴崎俊之 同 主幹 山本幸平 学校教育課 課長 登光広 同 副課長 平川真也 同 主幹 藤原良二 同 主査 青木敢也</p>	
<p>議題、会議結果、会議の経過及び資料名</p> <p><b>【議題】</b></p> <p>(1) 先進校視察結果について (2) 課題の整理と対応方法について (3) 今後の協議の予定について</p>	
<p><b>【会議結果】</b></p> <p>(1) 資料①に基づき、審議しました。 (2) 資料②から④に基づき、審議しました。 (3) 今後の協議の予定について、審議しました。</p>	

## 【会議の経過】

### 1 開会

### 2 協議

#### (1) 先進校の視察結果について

〔事務局説明〕

(委員長)

視察の参加者は42名で、やはり先進地視察を踏まえた中では内容が深まっていったというようなアンケート結果が出ております。私も、東山開晴館に視察に行かせていただいたのですが、保護者、地域の関連の学校開放と運営に向けた地域住民の組織づくりということで、これは本当に大事だなというのを痛感いたしました。運営協議会という母体があって、その運営協議会の会長さんも同席されていて、やはり地域の母体がしっかりした内容から進んできたということで、それがもう大事だなと痛感いたしました。東山開晴館は中学校2校と小学校5校が小中一貫になったらしいのですが、それまでに少子化の関連で小学校が統合されて、実質は7校が5校になったというようなことを聞きましたので、やはりその地域、母体がもう少ししっかりしていかなければならないかなというのを痛感いたしました。皆さん方も、多分そういう内容が大事であるというのを痛感されたのではないかと思います。

どなたでも結構なので、そういう御意見がございましたらお受けしたいと思うのですが。

(委員)

意見ではないですが、皆さん、本当に忌憚なく、どんどん自由に発言していただければいいと思います。2校、それぞれ、ちょうど半分ぐらいおられると思うのですが、どうかも何でも構いませんので、視察に行かれて気づいたこと、どんなささいなことでもよろしいので、どんどん構わずに意見を出していただければ幸いに思います。

(委員)

私は、凌風学園のほうに行かせていただきました。まず、校舎というか、施設が本当にとってもいいなということを思いました。よく考えてつくられていて、学年間の交流がしやすいように広いスペースがあり、廊下とかでもオープンな感じで遊ぶおもちゃが置いてあったり、高学年の子が低学年の子と一緒に遊んであげられるような、そういうスペースがあることがすごくいい環境だなというふうに思いました。それと、やはり一体型のほうが職員間の交流もしやすいので、効果は上がるのではないかなということも感じました。

連携に向けては、すごく前から細かく小・中連携に取り組まれていて、急に始めるのではなくて、少しずつ考えて取り組まれているので、やはりそういうふうな取り組みを加東市でも取り入れていくべきかなと思いました。

(委員)

資料のその他のところにも書いてあるように、小中一貫の取り組みの課題解決の絶好の機会と捉えたいというふうなことで、さまざまな課題があるだろうと思いますが、学校の施設面での課題を解決しようということ、それからやはり職員室が一体型だったら1つなので、日常的に教職員の交流ができるというふうなこと等々、いろいろあると思います。東山開晴館のほうに行ったのですが、一貫校にするには、地域の協力、バックアップがあってこそできたというふうなこともお聞きしま

した。まさしくそうだと思いますが、一つひとつ課題を解決しながらこの一貫校、特に一体型を進めるということが非常に大事だというふうに思いました。

(委員)

凌風学園は全校生760名と書いてあったのですが、東山開晴館は何人ぐらいですか。

前も少し話をしたのですが、一体型にして子どもたちと職員も一体となって前に進んでいくのはいいと思います。先生同士が顔を見合わせたり、それから子ども同士が見合ったり、先生が違う施設の子どものに常時見られるということが本当に大事なことなのでね。一体型がいいと思うのですが、そうするとあまり大き過ぎても大変だなと思っています。そのような中で、東条地区は450ぐらい、社地区が1,250ぐらい、滝野地区は1,050か1,100あたりになるのではないかと考えていくと、どこからスタートしたらよいかということも考えたいとは思いますが、それでも一体型がいいなと思えました。

凌風学園のほうに行っただけですが、一番学校に遠い子どもでも歩いて15分。それを考えると、例えばこの滝野地区であればもっと距離も離れていますので、いろいろとそこら辺については考えないといけないと思えますけれども、そんなものを乗り越えて一体型がいいなと思っています。

(事務局)

東山開晴館ですが、865。内訳は、小学校570、中学校295。ほぼ600と300ぐらいです。

(委員)

私は凌風学園のほうに行かせていただいて、イメージとか、そういうことの共有化というのは非常に大事だろうなと思えました。いろんな意見があるわけですが、実際にこういうところに行かせていただいて見たときに、施設のアドバンテージということをおっしゃっていましたが、やはりそういうものを目の当たりにするというのと、全くそういう情報が入らずに、頭の中で今あるものをイメージするというのでは随分違いが出てくるのではないかなというふうに思いました。効果から考えても、望ましいのは一体型であるということは思いますし、私も児童・生徒の数については一番好ましい、もうそういうことは選べないわけですが、あり方というのは探っていく必要があるんだろうなと思えました。

(委員)

私は、凌風学園のほうを視察させていただきました。話を聞くより実際に行くことで、小中一貫校というのが実際に感じる事ができたというのがすごく大きく、やはりいいものだなというのは再認識、実感できたという感じです。

質問になりますが、凌風学園の校長先生がエネルギーでポジティブだったのですが、東山開晴館の校長先生はどんな感じだったのかなとちょっと思って、教えていただけたら。小中一貫校自体はもういいものだというのは実感できたのですが、凌風学園のほうの感想にある「しっかりやればメリットしかない」というところで、結局はどう準備して、どうしっかりやってそこまで高めていくかということがかなりキーワードで、やはり小中一貫校をつくり上げていく体制というのがしっかりできていれば、小中一貫校は成功するんだなと思えました。

(委員長)

東山開晴館の校長先生というのは、もともと教育委員会の小中一貫の担当で、もう本当に実践でやられた方なので、もう内容的には自分らが把握したことをずっと続けておられます。考え方としたら地域の運営協議会と一緒にやっていったということが大切であるということをおっしゃっていますから、やはりお互いに行政も進み、地域もある程度そこにフォローしていったというのが実感かなというふうに

感じました。よい校長先生で、内容的なものを具体的に説明していただきましたので、よい勉強になったと思います。

(委員)

私は、凌風学園のほうに行きましたが、まず最初、建物を見て大変びっくりしました。やはり新しいことをやろうと思ったら、その目的を持って建物をきちんとつくってやると効果が上がるんだなという感じがしました。

ただ、ちょっと気になったこととしては、たしか説明してくださった学園長さんが3代目と言われていたと思うのですが、4年の間に2人変わられて3代目というのは、ちょっとそれは何か管理職がそれだけ大変なのかと、そういう感じがしました。

それから、学校の中を見ても、かつて荒れた経験があるということで、中学校的な感覚がかなり入っていました。例えば、最近あんなことをやっている学校は少ないですが、教室は全部鍵をかけていました。その辺が加東市ではそんなことはない、多分ないだろうと思うのですが、そのようなところを感じました。

また、町の中にある学校ですので、校区が狭いですから、歩いてくることができますよね。だから、一貫校になる前と同じ条件で通学できるのですが、加東市は校区が広がるため、その条件が変わるので、できたらバス通学とか、そういうことをやっているところの様子を知りたいなと思いました。通学途上、歩いてくるというのは結構子どもにとっても体を鍛えるという意味でもいいですし、その途上にいろいろな問題も起こるかもしれませんが、その間にいろんな経験ができると思うんですね。それがバスになると、そういうことができにくくなるということもあって、その辺のことがちょっと気になります。

(委員)

東山開晴館のほうに行かせていただいたんですけども、先ほど言われていましたが、校長先生はすごくエネルギッシュな方だと思いました。全てはつきりと、こうでしたというような感じで、文末が言い切り型の先生だったと印象を受けています。いろんなことを考えられて、これまで聞いたことがない、スパイラルとかという新しい単語の出てくるような授業時間がとってあったり、小学校の45分と中学校の50分という違いがある授業時間についてはチャイムなくしたり、もうそういうところを先にやはりいろいろ考えて、時間にも正確に、自分でもきちんと時計を見るという癖をつけたりとか、生活の中で必要なことをしっかりと考えることができるようなシステムが組み立てられていたのかなというふうな印象を受けました。

生活上も荒れている様子なく、一番記憶に残っているのが、トイレのスリッパがきれいに並んでいることです。各学年、各階数全てのトイレのスリッパがきれいに並べてありました。多分、そういうところにも着目して、生活環境というものもしっかり下が上を見てというふうな環境ができてくるんじゃないかなという印象は受けています。

京都という土地柄なのか、少し狭いかなというふうにはちょっと思いました。2階の途中にある外の運動場がサッカーに1面とれるかどうかというところで、それぐらいでも部活動は、外の運動部に関しても7部活はできているということで、時間割をすごく考えられているのかなとは思いましたが、滝野、ここの学校を見てみると、そういうところはこちらのほうが敷地面積や、子どもにとってのよい環境をとれるのではないかなと思います。本当に、実際行ってみてよかったなとは思いました。

(委員)

東山開晴館に行かせてもらったのですが、話を聞く限りでは数字で実績も出してきていましたし、わかりやすかったと思います。学校の雰囲気を含めて生徒の顔

見ると、なかなかいい感じで学校生活をしているのかなと実感しました。委員が言われたように、チャイム1つで本当に、どんな感じで授業をしているのかなというのが疑問だったところもあったのですが、校長先生のプレゼンを聞いているときにちょうどチャイムが鳴ったんです。チャイムじゃないですね、あれ。

(委員)

何か、最初のスタートだけ鳴るといふような。

(委員)

本当にそんなに気にならないような音で、しっかり子ども達が耳で聞いて、確認できるというのもひとつの考え方なのかなと思います。土地的に狭いということも含めて、9年生で800名が、授業に対しても運動場をどう使うのかという疑問がすごくあったのですが、いろんなルールがあって、詳しくは聞いていないんですけども、話を聞く中で、「ああ、なるほど」というシステムはわかりました。

ただ、これを今度、滝野のほうでどう組んでいくかは、やはりいろんな問題が出てくるのかなと思います。もう本当に仕様もないことかもしれませんが、一つひとつ解決していかないといけないと思っています。相手が人間対人間なので、いろんな問題が今からたくさん出てくると思うんです。その中で、チャイム一つにしろ、運動場の使い方にしろ、課題を乗り越えていくのはすごく大変で、パワーが要ることだなとちょっと実感はしているんですが。

(委員長)

大体、今の中学校とか小学校を利用した一体型にしているのか、そのあたりではやはり運動施設の関係なんかでも大分変わってくると思うんですね。だから、東山開晴館の場合はどうしてもそこへ集中したものですから、集中というのか、一貫にしたから、運動場自体は少し狭かったかもしれません。しかし、それは今、委員が言われるように、やっぱり下級生は上級生を見る、上級生は下級生のそういう態度を見る、こういうことが本当の一貫した教育かなと思いました。校長先生が第一声に、学校をつくるということは未来をつくることというように言われたので、これは今から担っていく子どもにはよい教育が必要だなというのも私も痛感したんですが、いろいろ皆さん方の御意見を聞きますと、やはり一体型が一番好ましいかなというような御意見があるんですが、ほかにこれというような意見があったら、またお聞きしたいと思います。

(委員)

凌風学園のほうに行かせていただいて、大体皆さんと同じで、一体型の新品の施設の中の、低学年から高学年まで本当にきめ細かな、例えば手洗い場の高さであったり、絵の具を洗えるところであったり、もう誰が考えたのか、本当にきめ細かく設備がつくられていたのにまず、びっくりでした。ただ、やはり京都のど真ん中の町なかということもあって、おっしゃられるようにグラウンドが若干狭かったんですけど、滝野のほうではそういう土地の広さ云々は問題ないのかなというのが今でもあります。あと、校長先生のリーダーシップが強力で、御本人さんも言われていましたが、特別な力を持った、強力なリーダーシップを持った学園長、特殊な人間がいるからできるのではなくて、誰でもできるような組織づくりをきちんとしていないとだめだというのはおっしゃってました。最初は、どうしても強力なリーダーシップを持った人が土台をつくっていくのですが、ただもうそんな人がずっと何十年にわたって、そんな人材がたくさん多分なかなか出てこないだろうと思いますので、その辺はもう完全に組織立ったものをきっちりつくって、どのような方が校長先生、学園長になられても、しっかりと学校が運営していけるような形をやはりつくっていかないといけないというふうに思います。

そういった場合、ここの地区自体、先ほど委員もおっしゃっていましたが、若

干言葉が悪いですが荒れた地区だったので、もともとの学校自体、すごいそんなにあまりよくなかったのが、小中一貫、一体型の施設をつくって、皆が意識改革をしてつくったことによって本当に、デメリットなく、生徒も非常によくなり、周りの中学校もよくなったといったところもあって、本当にデメリットはもう一切なかったですとおっしゃっていました。ただ、その反面、1年生から9年生までの授業を見させていただいたんですけれども、中学生、高学年、非常に大人びていて、しっかり勉強もされていて、教室の授業態度もすごくピシッとしている。もう小学校の4年生、5年生なんかは、今の滝中の1年生ぐらいのレベルではないかなと思うぐらいの感じがしたんですけれども、逆に、先ほど委員がチャイムの話がされましたが、凌風学園は見た感じが、個人的には厳しい感じがしました。1年生の教室にもカウントダウンの時計が置いてあって、例えば休み時間が10分あると、休み時間残り3分ですと、カウントダウンが始まっているんです。子ども達が教室でそれを見ていて、結局そのカウントダウンをオーバーしたら何か罰則があるのかどうかかわからないですが、カウントダウンを見ながら休み時間を過ごしているので、逆に全然子どもらしくないなど。小学校1年生や2年生なんかはもっと子どもらしくしていてもいいのではないかなというの正直思いました。

だから、こちらのほうで、小中一貫の学校をつくっていくのにおいて、個人的な意見ですが、もっと伸び伸びと子どもらしいところが小さいころはもっとあってもいいのではないかというの、少し思いました。

(委員長)

今、委員が言われたように、不登校とかいじめとかというような問題は、凌風学園のほうはどうでしたか。東山開晴館のほうは、かなり減ったということ聞いていますので、これはやっぱり一つのメリットかなというふうに思います。

(委員)

不登校は、もう激減したとおっしゃっていました。

(委員長)

今後のこういう課題とか整理対応について、2点目のほうに進んでいきたいと思うのですが、事務局からこの内容について説明していただきたいと思います。

## (2) 課題の整理と対応方法について

[事務局説明]

(委員長)

推進協議会のある程度の期間、それと準備委員会、これとの接点はどのような考え方なのか。

(事務局)

平成33年度に、例えば滝野で先行校を開校すると決まったら、この推進協議会は翌年28年度からは準備委員会として移行する予定です。ただし、役職変更等もありますので、その方々は当然そのときに入ってください。準備委員会のメインの委員としては、その時期の役職の方に入ってください必要がありますが、ただ、その方々が実際に、PTA会長さんや区長さんになられても、これまでの経緯についてはなかなか難しいと思いますので、今いらっしゃる方々で、残ってやってあげようというような方がいらっしゃったら、それぞれの準備委員会の部会へ入っていただきたいと思っています。それで、その代表者による委員会が専門委員会を組織して、その専門委員会の代表者による準備委員会があると、3層構造になっているのですが、結局一番それぞれで頑張ってくださいるのは、部会のところだと思います。部会が充実することによって機運が盛り上がっていきますし、何

とかそれぞれの地域の皆さん方の特性といいますか、好きなことにかかわるようなところで入っていただけたらうれしいなと思います。

整備順は教育委員会が年度で決めていきますが、開校から見て5年前からのスタートが妥当だろうと思っています。東山開晴館は結局、部会をつくったのが3年前というようなことを聞きました。高松は4年ぐらいです。5年あれば何とかできるでしょうということで私たちは考えています。そして、例えば33年度ではなく、それ以降の地域については、一旦推進協議会は解散となりますが、また何年か後、開校の5年前になったらもう一度組織をつくりますので、地域でお声がかかって部会のほうへ入っていただけないかというようなときには、積極的にかかわっていただけたらうれしいなと思います。

(委員)

平成28年度に施設面の検討、児童・生徒の意見聴取、通学関係と書いてあり、年度だけでなく、ある程度場所まで決めないと、あるいは決定されないと、最初の学校についての28年度が動かないのかなというふうに思ったら、3地域の中でどこなのかなというところも思ったりもしないこともない。

(事務局)

今は方針としては、滝野地域だけがまだ今後検討していくというようなことで、教育委員会としては出させていただいております。

(委員長)

今後の問題ではなく、やはりある程度、そういう内容を精査したものを推し進めていかないと、もう少し早く具体化するように持っていかないと。

(事務局)

具体的な場所の話が出たのですが、どうですか。

(委員長)

滝野地域の場合は、面積が社や東条と比べると小さいので、自ずと中心になっていったら、やはり、もうこのあたりくらいになってしまう。

(委員)

今の滝野中学校の、この場所ではつくれないんですよね。

水とかの避難場所にならないのではないかとということで、今の場所ではつくれないというような話を少し聞いたのですが、防災の避難場所等の関係は、別に関係ないのですか。

(委員長)

水防のシミュレーションを見たら大体1階部分ぐらいは浸水かと。だから、隣の下滝野の公民館にしても同じ高さくらいなので、本当の避難所という指定できない。ただ、加古川改修がされているから、多分、堤防とか、そういうものができたらもう少し安全面について、緩和できるかもしれないですね。

(委員)

12月の加東市の広報の小中一貫教育推進の方針というところで、どうしても順番として東条地域、社地域。そして、東条地域は東条文化会館周辺、社地域は社中学校周辺と、もう具体的に出ていて、一応、今の段階では滝野地域が最後になるのではないかとというようなことですが、ただ滝野地域、例えば平成40年ということになると、今の話で5年間という話がありましたけど、今から考えたら13年後というようなニュアンスで滝野の人たちが言うと、加東市全体としてもなかなか小中一貫の足並みもそろっていかないと。一度に3つ建てるというのはなかなか難しいと思いますが、やはり加東市を1つと考えて、できるだけその3つを建てる期間をもう少し圧縮していただければ、別に滝野地区の人が真剣にやってないというわけじゃないですけども、多分もっと具体的に中に入っていけるのではないかと

などと思います。やはり、この間、すごくすばらしいところに視察に行かせていただいて、あの学校の施設が本当に頭にこびりついて離れないので、滝野のどこかにあのようなすごい学校、大きいグラウンドができて、あのようなところで子どもを育てられたら本当にいいだろうなというのをずっと思っています。その辺、やはり具体的な場所と時期というのは、今の滝野の私達である程度、もうちょっと強いこと言わせてもらってもいいのではないかなとは思いますが。

(事務局)

逆に、そういう意見をいただけたら非常にうれしいですね。現在は、1校目は平成33年を目指していますけど、次の建物の建設についてはそういう推進協議会の意見を踏まえて今後決定していくということで、少し変わってきております。

(委員長)

この推進協議会のメンバーは、強力な推進母体なので、滝野はいつになるかわからないと言ったら、誰も。

今後の協議予定についてということで、説明をお願いします。

### (3) 今後の協議の予定について

〔事務局説明〕

(委員長)

1月に第4回目という計画か。

(事務局)

そうですね。

整備順等は先ほどちょっと出ていましたが、先行校は平成33年ということで、そこに滝野を入れてほしいというような御意見であったり、先ほど委員がおっしゃったようにそんな急とは言わないですが、平成40年まで待たさないで、なるべく早くしてくださいということであれば、それも御意見として、私どもはそれを参考にさせていただきます。要は、決定しなければ、5年かけてやっていくということで動こうとしておりますこの組織は動きようがないですから、私どもも決定しなければいけませんので、その決定に対する御意見を4回目にいただきたいということです。それも、当然、場所も含めてですが、ただ、絶対にこことかと言われてしまえば、それは選択になりませんので、先ほど出ていましたここが難しければちょっと高いところであったりとか、そういう皆さん方の御意見を踏まえて教育委員会で決めるということです。

(委員長)

推進協議会自体の考え方としては、本当はもう少し物事を進めるにしても、やはりある程度、計画が具体化していかないと。だから、東条はここです、社はここです、滝野はまだ保留ですよといっても、推進のほうから見たら、もう少し、計画の枠だけでもいいので少し内容を詰めていかないと、この推進協議会の中からだったら、そういう意見も多分出てくると思います。東条、社は、計画が出て、滝野は出てないといえば、それでは推進協議会は何なのかというようなこともあるから、こういうことももう少し詰めていってもいいのではないかなと思うんですよね。どうですか。

(事務局)

それでは、次回、例えば、もうこの周囲ということであれば、半径3キロの円を書いて、バスであればこれだけの人数が乗って、地区ごとであればこうですと、シミュレーションをすることはできます。要は、今、場所が決まらなければ絵が描けないので、今度の会議である程度のシミュレーションを示してほしいということで

あれば、示す準備をしてお持ちしますが、勝手にここにしたと言われてしまったらちょっと厳しいですので、これを御了解いただき、ここで一度シミュレーションをしてほしいということであれば、御用意はできます。

(委員長)

P T A等で特にそういう意見は、ないですか。

(委員)

特に小学校の保護者は、多分通学が一番気にされているのでは。ただ、滝野は、小学校が東小と南小学校の2つだけで、多分ちょうどこの辺が中間くらいではないかと思うので、そんなに突拍子もなく端にはならないと思います。中学生の保護者に関しては、今までも通学は自転車と、徒歩で来ているので、その辺は多分問題ないのですが、小学校の1年生や2年生の小さい子が、例えば東小学校の遠いところからここまでどうやって来るかとか、また、非常にお子さんが少ない地区の保護者にしたらやはり大分心配事ではないかと思います。

(事務局)

ここで一度シミュレーションしてほしいということでしたら、その資料は整えますが、よろしいですか。

(委員長)

言われるように、ある程度、エリアを見ながらすれば、内容が詰まってくると思いますからね。

(委員)

ある程度の場所、具体的にではなくて、例えばここにつくったとして、シミュレーションをしていただいて、それでこの地区は子どもさんがどれくらいいて、また、小さい子がいて、例えばバスのルートはこのようなルートになりますというのを大雑把でいいですからつくっていただければ。そこで、ここはこういうバス通にしてほしいとか、こちらに回ってほしいなどという具体的な話は、地図があつてできると思いますので、つくっていただければ、次回、非常に助かると思います。

(委員長)

小学校では、何かそのような話は出ていますか。

(委員)

具体的に場所はどこというのはありませんが、漠然としたイメージとしては、滝野中学校周辺になるのかなという感じを受けます。中学校になったらいずれにしても通うところですからね。

(委員)

遠いために車で途中まで送っている方もおられますので、本当に漠然としていて、考え方が思い浮かびません。個人的な意見は、単純に真ん中がここだからここがいいのかなということですが、ただ先ほど言われたように避難所がどうかとか、地盤がどうかと言われたら、全くわからない。

(委員長)

それは、これからの全体的なものを詰めていく中で、1つずつクリアしていけないといけないと思いますね。

(委員)

保護者がそのように個別に車で送り迎えをされているのであれば、例えば市からバスを出してもらって乗れるということになれば、保護者の負担は逆になくなる。

(事務局)

今、非常に前向きな意見をいただいてありがたいなというように思っています。場所について、いろいろな候補が出てくるという可能性ももちろんあるわけですがけれども、今の御意見聞いていますと、とりわけこの中学校を中心として小中一貫校

を建てるとすれば、今、通学のことも結構意見が出てきていましたので、どんな問題が起こってくるのかということを検証する。その上で、これだったらOKということになれば、この場所が一つの候補地になるというふうなことを次の第4回目にやるということでしょうか。その確認をしていただけたらと思います。他にもあるということだったら、それも考えてみます。

(委員長)

一つのシミュレーションをつくったら、いろんな面から意見が出ますね。

今言われるように、通学にしても距離的なものもあるし、現実には実態はそうなるか、その辺はやはり今から詰めていかないと。何か一つの土台、計画、本当の案のようなものを詰めて、それからたたき台をつくりながらやっていかないと。今の状態より、やはりもう少し進んだ形をとったほうが、各保護者、住民には具体的な説明ができると思います。

(事務局)

それでは、次回はとりあえず、ここを一旦想定した形で、たたき台を作成させていただきたいというふうに思います。

(委員)

ちょっと、いいですか。

今、聞いていたら、各地域でどこに小中一貫校をつくったらよいかということ協議していくわけですか。それが順番にもかかわってくるのですか。

(事務局)

希望をお聞きするというので、決めるのは私どもです。例えば、滝野地域が最後で結構ですということであれば、滝野地域は最後という御希望ですというだけの話です。

(委員)

順番もそこで考えていくということですね。

(事務局)

順番は、滝野地域が、社は2番目とか、3番目とかということではなくて、要は、なるべく早くしてくださいという御意見、先ほど委員がおっしゃったように、平成33年開校とは言わないけれども、それになるべく近い時期に滝野もやってほしいという御意見を聞けば、私どもは直近でつくる計画を立てるということです。開校場所については、滝野だけが未定だったので、滝野についてはお聞きしようとしています。滝野以外は、今、東条は文化会館周辺、社は社中学校周辺で考えています。ここでシミュレーションをすればこのような状態になり、これで進めようと思っていますが御意見をいただく予定です。滝野は、今言いましたように、今日候補地としてここで一旦シミュレーションしてほしいということが出たから、今度は具体の絵が描けます。ほかの地域は、具体の絵はもう描けていますので、それを4回目でお示しするという事です。

(委員)

それぞれの地域で場所の希望を出して、最終的に順番を決めたりするのは教育委員会でしょうけれども、その順番を決める基準というのは、安全性とか、そういうことですか。

(事務局)

必要性です。それは安全もあるかもわかりませんが。

(委員)

必要性ね。ちょっと、自分自身が勘違いをしていたかもしれないですが、前に、何かで質問したときに、実際に順番につくり始めてタイムラグがあるけれども、3つの地域協議会は、同時進行で進めていきますという話をされていたから、そうか

など思っていました、今日の話を知ったら、一旦、3つの地域からいろいろ希望を聞いて、候補地を考えて、その中で順番を決めていった後は、2番手、3番手については少し後に回しますという話でしたけれども、その方法に変わったわけですね。

(事務局)

前に説明したときには、その説明はしていないと思います。もし、平成40年というふうに計画を立てたとすれば、平成35年からの準備をやりますという説明を一貫してやっていると思います。

この推進協議会は、同時進行でやっています。

(委員)

この推進協議会は同時にやって、準備委員会はタイムラグをつけるということですか。

(委員長)

ただ、今の全体的な計画の素案が、東条、社はある程度もう具体化しているけど、現実には滝野は具体化されていないということで、これ自体が説明不足になってしまうのではないかと、もう少し計画案が出せたら、もっと具体的な説明ができるというふうなことになると思うんですよ。だから、一応順番とかは別として、やはり合併しているのだから、同じような形をとっていかないと。旧の2町はもう全体的に決めて、滝野だけ決まっていなくて、滝野の住民から、どうなっているのかということになるから、そこら辺の考えだけです。

(委員)

わかりました。

(委員)

元々、出身が加西のほうで、こちらの土地にはあまり馴染みがない状態なのですが、ここで作ってほしいという意見を先に吸い上げて、そこに土地がないということも考えられると思いますので、まず、学校を建てられるだけの敷地があいているところの候補地というものを上げてきていただけたらと思います。もう家が建っているところに学校をつくりたいといっても多分無理だと思いますので、まず候補地をいくつか設定していただいて、そこでまた協議を進めていくという形のほうがよいのではないかと思います。ここの学校でシミュレーションを第1番にし、違うところでもすればメリット、デメリットというような比較ができると思いますので、まず候補地を3点ほどあげてきていただければ、その違いが見えてくるのかなというふうには思うんですけども。

(事務局)

3点上げるとなったときに、例えば、光明寺で1カ所、ここで1カ所、高岡で1カ所とやっても意味はないと思うんです。ある程度、この周辺でどこなのかというのであれば絵は描けます。ただ、用地確保が前提になりますので、用地確保がなされていない状況で、ここに建てたときにこうなりますというのは、やはりちょっと控えるべきかなと思います。次回については、この周辺で絵を描いたときにこうですというくらいでおさめたほうが、100メートル、200メートル変わりませんよね。実際にこの周辺で決まったときに、それではこの周辺のどこでというのは、その次の段階かなと思うのですが、いかがでしょうか。

(委員)

一つしかない、もうここになるのかなという頭になってしまいそうな気はするんですけどね。これでできるのだったら、もうこれでいいみたいな。比較対象というものがあったほうが、どちらのほうがいいのか、メリットとデメリットが多分出てくるのではないかと思います。それに、先ほど言われたように、平成40年を目途に

されると、準備委員会に入ってほしいと言われても、7年後になるわけですよ。7年後に今の話も覚えておけるかどうかの自信が全くないです。その辺です。

(委員長)

今、事務局のほうにお願いしたのは、もう全般的な考えというのは、委員が言われるような内容なんです。だから、一つのエリアをある程度決めていかないと、メリットとかデメリットというのは出てこないの、その辺の問題を1回詰めて、第4回目に1回説明していただいて、それをたたき台にして今から推進協議会のほうで持っていこうというやり方なんですけど。東条の場合は文化会館の周辺で、用地が確保できるかわかりませんが、そういう適地がある。また社については中学校周辺が適地で、社高校、学園のところにも施設もあるからということもある。それでメリットやデメリットが出てくると思うんですよ。だから、今のところ、滝野地域は計画自体あがっていないから、もう少し詰めていかないと、やはり推進協議会としても説明ができないということを行っているの、そこら辺、事務局のほうで精査していただいて、次回の4回目ぐらいにある程度の議論ができるものをつくっていただいて、1回、協議したらどうかなと思うのですが、よろしいですか。

それでは、いろいろ御意見が出ていますが、今、事務局のほうから第4回目の日程の内容等を説明されたのですが、それによって第4回目の推進協議会、一応今言いました内容をつくっていただいて、皆でもう一度、再協議していったらどうかなと思うのですが、それでよろしいでしょうか。

〔異議なし〕

(委員長)

事務局、そういう内容で進めていただけますか。

(事務局)

見える形で提示させていただきます。

(委員長)

それでは、一応協議関係は以上で終了します。

### 3 閉会

#### 【資料名】

資料① 先進校視察結果について

資料② 課題と対応方法について

資料③ 加東市小中一貫教育準備委員会組織 (案)

資料④ 小中一貫教育準備委員会等教育施策 行程表 (案)

平成28年1月15日